

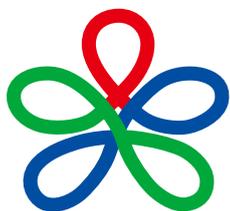


宮古島市文化協会

2014
秋号
No.11



今号の主な内容



宮古島市文化協会

《会章》

「5つ（平良・城辺・伊良部・下地・上野）の花びらが一つの文化（花）となって開花しました」という意匠。「文」をもじりました。

- 第21回鳴りとうゆんみゃ〜く方言大会
第20回しまくとぅば語やびら大会 2~3P
- 第9回市民総合文化祭に向けて 各部会長からメッセージ 4P
- 宮古野鳥の会設立40周年式典と祝賀会
▽第39回二季展 ▽第18回盆栽展 5P
- シマdeシンポ ▽ファイバーアート展について 6P
- まちからむらから「かわら版」 7P
- 「鼓童」に向けて 8P



下地 政吉さん



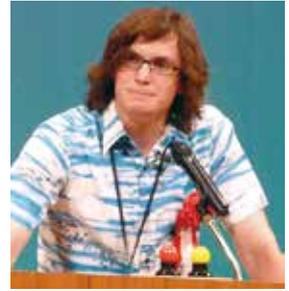
狩俣 貞光さん



花城 一海さん



與那原 マサエさん



セリック・ケナンさん

第21回 鳴りとうちんみゃ〜く方言大会

国際化したみゃ〜く

昨年20回という節目の大会を迎え、さらに充実した21回大会。何とフランスのセリック・ケナンさんも出場して、いよいよミャークフツは国際的な広がりを見せた。また、10歳で石垣島に移住したという與那原マサエさんは、古希の記念にと出場、味わい深いミャークフツを聞かせた。個性豊かな7人の弁士が、それぞれのテーマでふるさとへの思いを語り、会場を沸かせた。

今回、登壇したのは下地政吉さん(伊良部仲地)、狩俣貞光さん(平良狩俣)、花城一海さん(下地入江)、與那原マサエさん(石垣市在住下地与那覇出身)、セリック・ケナンさん(フランス出身、現在京都大学大学院で言語学を研究。今年3月から宮古語の調査研究で滞在)、福里富士子さん(城辺保良)、ユガタイ主(伊良部仲地)の7人の皆さん。

下地さんは、島でサトウキビ栽培に命を賭けているとして、「人生あれこれ」のテーマで幼い頃の島の習慣や古老から教えてもらった話などを味わい深く語った。狩俣さんは、昨年につき2度目の挑戦。「みー(目)ぬしょうやにゃんお父の物語」をテーマに父親のおどけ話をおもしろおかしく語り、会場の笑いをとっていた。

今でも日常会話は方言だという花城さんは、「夫婦の絆」のテーマで両親や自らのことを語り、面白い中にもほろっとさせる場面など入江フツを聞かせた。與那原さんは「方言札」のテーマで語り、幼くして家族と石垣島に渡った苦労話の中にも、「方言札はどこで買うのかね」といった時代を皮肉ったユーモアで会場を沸かせ、教育長賞を受賞した。

宮古に住んで3ヵ月というセリックさんは、最初に「バヤー、パリカラドゥ来スター、ウマタヌ畑(パリ)ヤ アランド」とミャークフツを流暢にしゃべり、聴衆を驚かせた。テーマは「みゃ〜くぬ島はズミな島」。短期間で宮古の言語や慣習を習得して、大会に出場するという稀な才能に会場からは惜しめない拍手が送られ、文化協会長賞を受賞した。

「我が家の牛物語」をテーマに語った福里さんは、日ごろも夫婦の会話は方言だという。衣装も作業服に帽子、雨靴といった出で立ちで、いつもの牛の飼育の様子を面白おかしく語り、会場を沸かせ、市長賞を射止めた。最後は、伊良部島から出場のユガタイ主。テーマは「幸せの島」。ひげを生やし、着物姿で出場した主は昔、古老たちから聞いた教訓話を味わい深く語った。

審査結果

- 市長賞 福里 富士子さん(城辺)
- 教育長賞 與那原 マサエさん(石垣市)
- 市文化協会会長賞 セリック・ケナンさん(フランス)
- 宮古毎日新聞社賞 下地 政吉さん(伊良部)
- 宮古新報社賞 花城 一海さん(下地)
- 宮古テレビ賞 狩俣 貞光さん(平良狩俣)
- 観光協会会長賞 ユガタイ主さん(伊良部)



審査員長の下地 智さん



福里 富士子さん



ユガタイ 圭さん

ごあいさつ

宮古島市文化協会
会長 大城 裕子



今年も多くの皆さまのご協力のもと、大会が開催されたことを心から感謝申し上げます。

現在、世界で話されている言語の数は約6000語といわれていますが、そのうち、約2500語が消滅の危機に瀕しているというユネスコの発表(2009年)があります。日本では、アイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語の八つの言語が消滅危機リストに加えられています。方言はその地域の自然や文化、伝統などを表し、その言葉を使ってきた人々の暮らしや、その土地の気候風土によって育まれてきたものです。

地域の言葉を失うということは、長い歴史の中で培われてきた文化を失うことにもなります。先人たちが大切に育ててきた地域独自の言葉は、その地域の共有財産であるということをしっかり受け止め、スマフツを後世につなぐために当協会も今なにをすべきかを真剣に考え、取り組んでまいります。



開場は終始、笑いの渦に



審査を待つ間、パニパニおばあが会場を沸かせた



審査の結果、中央の福里さんが市長賞に輝いた

第20回しまくとぅば語やびら大会

毎年恒例の県文化協会主催「第20回しまくとぅば語やびら大会」が9月20日に沖縄コンベンションセンターにて今年も開催されました。

小学生をはじめ25組32名の皆さんが地域色溢れた「しまくとぅば」を発表しました。

宮古島市代表の福里富士子さんは「我が家の牛物語」を演題に、テンポよく「みゃーくふつ」を披露し、会場からは終始笑いがたえず、宮古島色で盛り上げました。



沖縄本島で堂々と
ミャークフツを聞
かせた福里さん

書道部会



池田 幸子

一般的に書道展の作品は「解説で
きず訳がわからない」との声をよく
耳にします。読めなくてもいいんで
す。文字の長い歴史を感じ取り、見
て楽しんで頂ければ幸いです。

美術部会



島袋 正弘

美術部会では「市民のあなたが主
役です」。「地域の文化・情報など
を美術作品の中で発信する」とい
う地域の特色を出していければと
思っております。

華道部会



池村 和代

これまでも島に自生する草木や
花々などを主とし、生け花のおも
しろさを展示してきました。生け手
の個性あふれる作品が彩りをもっ
て、皆様を楽しませる事と思いま
す。

文芸部会



新城 美津枝

文芸部会では「多くの市民が参加
する文化祭」の趣旨を受け、児童
生徒、高校生、一般市民の作品を
広く紹介します。

茶道部会



平良 幸子

お茶室で「茶筌を振ってみませ
んか?」「みのり」をテーマに茶室を秋
の室礼にて市民の皆様をおもてな
し致します。体験希望者には、実際
に「茶筌」を振って「自服」して頂
きます。

生活文化部会



酒井 恵子

地域の食材を活用した食文化の継
承をしつつ、アレンジ料理にも取
組んでいます。今回私達は、生活
研究会の文化継承を高めるため
にも、市民の皆様より「自慢の一品」
料理を募っていきます。

郷土史部会



久具 弥嗣

郷土史部門では、これまでも下地
地区、平良地区などで史跡巡り
を行ってまいりましたが、今回は城
辺地区の史跡巡りを行うことにな
りました。

織物部会



上原 則子

織物の体験や糸績みの体験を通し
て宮古で唯一、伝統工芸品に指定
されている宮古上布の魅力を知っ
て頂き、継承していく事の大切さ
を少しでも解っていただきたい。

園芸部会



平良 耕次郎

市民から出品された観葉植物を中
心とした展示を予定しております。
会場の装飾にもなり、他の部会に
も華やかな雰囲気づくりが創出で
きたらと思います。多くの市民の
参観をお待ちしております。

盆栽部会



下地 徹

日本の伝統文化である盆栽を広く
市民へ普及し、心豊かな潤いのあ
る生活の推進に寄与することを目
的に盆栽を展示します。今年も多
くの方々にご来場いただきますよ
うお願いします。

写真部会



翁長 靖夫

文化芸術分野の中では、手軽に親
しみ参加できるのが写真です。撮
りたい物にカメラを向け、シャッ
ターさえ切れば、自己作品として
永遠に残すことができます。

児童文化部会



奥平 久乃

今年は平良地区で行います。想像
の翼を広げ、各グループが創り上
げた「おはなしの世界」を多くの方
と楽しみたいと思います。▽平成
26年12月7日(日)午前10:30開
演▽西原地区公民館▽入場無料

音楽祭部会



洲鎌 律子

「音楽祭」高校・一般の部は11月
30日(日)にマティダ市民劇場で開
催される予定です。この音楽祭を
一年間の発表の場と捉え、多様な
音楽がステージ一杯に繰り広げら
れています。

芸能祭部会



粟國 和伸

20を超える団体の出演で【観る】
【聴く】【踊る】が集約されています。
▽開催日:平成26年12月7日(日)
▽開演:午後6時30分(開場午後6
時)▽場所:マティダ市民劇場▽入
場料:500円

宮古野鳥の会

宮古の自然と共に40年 サシバ保護と調査に取り組む

設立40年を迎えた宮古野鳥の会(仲地邦博会長)は7月、記念式典と祝賀会を市内ホテルで行い、今後の発展を祈念すると共に40年の節目を盛大に祝った。仲地会長は「これからは誰もが自然に親しむための活動、愛鳥思想の普及、保護繁殖を図ること、郷土の自然環境の保全の四つを柱として活動、将来の世代に宮古島の素晴らしさを引き継いでいきたい」とあいさつした。

長濱政治副市長は、与那覇湾が2年前にラムサール条約の登録湿地となったことを挙げ、「以前、与那覇湾の淡水湖化の話が持ち上がったとき、真っ先に野鳥の会などが阻止したことが、今回のラムサールにつながった。後世に残すべき大きな財産として、皆さんの活動に感謝したい」と述べた。

同会は1974年に結成され、サシバ保護と調査に取り組む、毎年継続して飛来数の調査を行っている。そのデータ結果が2006年にサシバを絶滅危惧Ⅱ類に指定する根拠となった。歴代役員には感謝状が贈られた。感謝状を受けたのは、久具勝盛、故・親泊宗正、岡徹、砂川友弘、真壁靖人の5氏。環境省の担当官や市議会議員、市文化協会長らも出席して同会の更なる発展を祝った。



40年の活動をつづった記念誌



出席した多くの関係者が同会の更なる発展を祝った

第18回盆栽展

丹精込めた作品が一堂に

日本盆栽協会宮古島支部(下地徹支部長)は7月、市内の宮古グリーンセンターで第18回盆栽展を開催。丹精込めた作品が会場狭しと展示され、訪れた愛好者らの目を楽しませた。初日午前、八重山支部の新城弘志顧問による技術講習会が行われ、参加者たちは、顧問の指導に真剣なまなざしで聞き入った。



訪れた愛好者達が見事な作品に感嘆の声

同盆栽展は、日本古来の伝統文化である盆栽の普及と愛好者らの技術向上、会員の親睦などを目的に毎年開催されている。今展には、19作品が展示され、そのうち、10作品が入賞した。ハマシタンやガジュマル、イボタクサギ、アセローラなどの植物を、鉢の中で見事に開花させた。



表彰式では入賞者がにこやかに

会員の力作、会場賑わす 絵画サークル「二季会」

二季会(砂川幸夫会長)の第39回二季展が6月、市内西里通りの花ギャラリーTOMOEで開催され、会員らが丹精込めて描いた秀作や大作の数々が展示された。

作品の中には、文化財に指定された遺跡や伝説などをモチーフに描いた「mamya」「盛加井」「大和井」、国の名勝地に指定された「東平安名崎」などの秀作が会場狭しと展示され、訪れた市民は鑑賞にふけていた。

今回の出品は13人。中でも宮古に移住して3年という天沼久雄さん(88)は5点を出品。9月に同ギャラリーで行われた個展は米寿を記念して行われ、その精力的な創作活動は会員の励みともなっている。



会員の力作が一堂に展示された



市内のギャラリーで個展を開いた天沼さん

どう継承していく「しまくとぅば」「クイチャー」

地域の伝統文化を考える シマ de シンポジウム



伝統クイチャーを披露した友利郷土芸能保存会

これまで守り伝えてきた言葉（スマフツ）や伝統のクイチャーを次世代にどう継承していくか、としたシンポジウムが8月30日、城辺公民館で開催された。県・県文化協会の主催、市教育委員会共催、市文化協会後援。関心を寄せる多くの市民が参加して、現状と未来を考えた。

パネラーはミュージシャンの下地暁さんと下地中学校教諭の謝敷勝美さん。コーディネーターは宮古郷土史研究会の下地和宏会長が務めた。暁さんはアーティスト・プロデューサーで長年「クイチャーフェスティバル」を企画運営してきた。宮古島の古謡や民謡を中心としたアルバムを制作するなど、音楽を通し地域の文化を世界に発信している。一方、謝敷さんは、中学校文化連盟の活動を通して、子どもたちにスマフツや地域の文化を伝えている。

暁さんは、2002年に人頭税廃止100周年を記念してクイチャーフェスティバルを立ち上げた経緯を「宮古の歌や踊りは独特で、祭祀の中の祈りから始まったと思える。エイサーの波が宮古に押し寄せてきたとき、宮古にはクイチャーがあるのにと、強い違和感を覚えた。この気持ちがイベントを立ち上げる原動力となった」と話した。



コーディネーターの下地和宏さん(左)、パネラーの下地暁さん(中)と謝敷勝美さん(右)

最初9団体だった伝統クイチャーは現在16団体に、創作クイチャーは11団体から50団体に増え成功を取めたイベントだが、今後の課題として世代交代と地謡（じかた）の継承、団体の育成、運営費の確保などを挙げた。学校現場から謝敷さんは「子どもたちは方言を少しは聞いたとしても話せない」という実態を報告、ニガウリをゴーヤーと言ったり本来の方言が失われつつあると嘆いた。これらの課題を下地さんは「基本的に非日常化しているミャークフツを日常化すること、そのためにどうするかを今後みんな考えていきたい」と総括した。

フロアからは「お願いとは、方言でどう言うか」とか「タラキとブーリャの違いは」「ありがとうの意味は」など疑問質問が飛び交った。この日のイベントでは、シンポジウムの他、友利郷土芸能保存会が伝統の友利クイチャーを披露した。



今後の継承を一緒に考えた参加者

再発見！宮古の織物

アジア諸国のファイバーアート作家による「第10回アジアファイバーアート展in宮古島」が、12月11日(木)～14日(日)、宮古島市中央公民館と宮古島市総合博物館において開催されますが、同時に、その主会場である公民館の2階・研修室で当協会主催の「再発見！宮古の織物」を開催いたします。

宮古の織物をより身近なものとして感じられるように、また「私たちの布」として、思いを深めてもらえるような催しを予定しています。

城辺地区

なりやまあやぐまつり

今年9回目を迎える「なりやまあやぐまつり ～ぶどうりとうゆまし 肝心～」は、宮古人（みやーくびと）の肝心（つむぐる）を唄い踊るイベントとして、毎年開催。友利インギヤーの海上の特設ステージに灯されたろうそく灯籠が幻想的な雰囲気醸し出す中、この日のために練習を重ねてきた歌い手たちが、「なりやまあやぐ」を情感たっぷりに歌い上げ、聴衆を魅了します。友利集落で明治～大正時代、即興歌として歌われていたと伝えられている「なりやまあやぐ」は、今では沖縄三大教訓歌のひとつとなり、三線の入門歌としても広く歌われています。

また、この「なりやまあやぐまつり」は、インギヤーの湾内外の会場装飾のため、1人1缶（空き缶）及びろうそく1本を提供してもらい、誰もが会場演出に参加できる参加型イベントとなっており、島内外から多くの人々が訪れ、ろうそくの暖かい灯りとゆったりとした旋律に浸りながら、宮古島の秋の夜を愉しんでいます。まつり関連行事として、ふるさと農村活性化フォーラム、交流会・なりやま前夜祭なども行われました。詳細は実行委員会事務局まで（77-7691）



記念碑の前で役員らで行われる演奏

上野地区 世界最大の果実パラミツ実る 上野豊原の来間農園

幹からいきなり生るパラミツの実。いぼ状の突起に覆われ、グロテスクな形をしたその実が上野豊原にある来間清典さん（82）の農場で実り、収穫を迎えようとしている。来間さんは長年、県農業改良普及所に勤め、定年後は宮古島森林組合の初代常務も務めるなど、農業に関するオーソリティで、これまで宮古の農業と緑化に貢献してきた。現在、生家のあった豊原に広大な農園を営み、レモンを始めバナナ、シークアサー、ゴレシ、パラミツなど、南国の果物を栽培する。

現在、宮古島椿の会の顧問として活動、宮古をツバキの島にしたいと意気込む。これまでトックリキワタやホウオウボクなどを普及させ、花と緑の島を提唱してきたが、作物を栽培するにはどうしても防風林が必要と言う考えに達した。来間さんは「昔からお茶として、薪（燃料）として、防風林として島を支えてきた植物はヤブツバキだということに行き着いた」と話し、畑のほとんどにツバキの木を栽培、集落の生垣としても奨励、普及させている。現在は、実から取れる油にも注目、あらゆる効果に期待が高まっている。

「農業はこれという確実な答えは出せない。気象や害虫との闘いでもあり、理論どおりにはいかない。ぼくは失敗の連続だ」と言いつつも、日々



大きなパラミツの実と来間さん

農業に取り組む来間さんにとって、農園は癒しの園。毎年実るパラミツも友人から苗をもらって植えたもの。いつ植えたかも覚えていないという。それでも、「みんなが珍しがって見に来てくれるので植えてよかった」と笑みを浮かべる。（佐渡山政子）

地域 かわら 版

下地地区

来間島のヤーマス御願

下地来間島の島最大の行事であるヤーマス御願が、旧暦9月甲午の9月20日より2日間に渡り盛大に執り行われました。

祭りの初日には、来間島の島建て伝説に由来する3兄弟、スミリャー、ウプヤー、ヤーマシャーの家元で、子孫繁栄を祈願する「サラピャース」と「マスムイ」の儀礼が行われました。2日目には各ブナカが、棒振りや奉納舞踊をしながら島内を練り歩き、雨乞いの座に集まり、五穀豊穡や無病息災が祈願されました。

今年のヤーマス御願では、文化継承と後継者育成のための試みとして、小学生は奉納舞踊の参加だけではなく、来間小中学校フォトプロジェクトの活動としても小学生による祭事の記録として写真撮影も行われました。掲載の写真も来間小中学校の生徒が撮影したものです。こうした取り組みも島民と学校が協力しながら今後も続けていきたいと思っています。（砂川洋子）



奉納舞踊で島内を練り歩く住民

伊良部地区

地域をつなぐ祭りに支えられて 佐良浜のマークツツクイチャー

親島の池間島を中心に行われるマークツツ。旧暦8月の最初の甲午（きのえうま）を初日に4日間行われる。今年は9月20日から始まり、夕方から行われるクイチャーは、元村ジャー、中村ジャーで円陣を組み豊漁、豊作、家族地域の健康を祈念して賑やかに踊られた。

マスムイとは、佐良浜に生まれた男子が、その年のマークツツに健全な成長を祈願し、元村か中村のいずれかのジャーに名前を登録するもの。大人になった男たちは、元村が数え47歳、中村が50歳で「ミーウヤ」となる。ちなみに、女子は数え57歳でナナムイの神さまにユークイのインギョーを報告し、この世に生を受け健康やかに成長したことへのお礼をする。

クイチャーは午後4時頃から始まり、8時頃まで踊られる。最初は、時間にゆとりのある人たちから参加し、6時から7時頃には幾重にも輪ができ、踊りは最高潮に達する。輪の中にはミーウヤたちが踊り、酒などが振舞われた。また、各ジャーでは、記念のタオルがたくさん準備され、踊る人や見物人にも配って喜ばれた。

今年の佐良浜小学校の運動会では、プログラムにマークツツクイチャーが組み入れられ、地域の人たちの指導で当日は子どもたちが、正確な手の打ち方や、歌に合わせた踊りで大人たちを感動させた。私も、こうして伝統文化は引き継がれていくんだと胸を熱くした。島が平和で、豊漁・豊作に恵まれますように。（伊志嶺幸代）



輪になってマークツツクイチャーを踊る

12年ぶりの
宮古島公演

太鼓芸能集団

KODŌ

鼓童 交流公演

10月29日(水)、マティダ市民劇場にて、太鼓芸能集団「鼓童」による「鼓童交流公演」を開催いたします。新潟県佐渡島を拠点に和太鼓を中心とした伝統芸能の精力的な活動を行っている「鼓童」の公演は、宮古島では12年ぶりとなります。

和太鼓の音は日本人の魂を揺さぶり、また、和太鼓の演奏を通して私たちは日本文化の真髄に触れることができます。和太鼓・和楽器の楽しさ、奥深さを感じてもらい、太鼓の魅力や太鼓を打つ楽しさを知ることによって、自分自身の発見にも繋げていけるような交流の場を提供いたします。



10月29日(水)
18:00開場 18:30開演
マティダ市民劇場

チケット 一般 前売り 2,500円 (当日3,000円)

高校生まで 前売り 1,000円 (当日1,500円)

※未就学児でも座席を必要とする場合はチケットの購入が必要です。

プレイ
ガイド

TSUTAYA沖縄宮古島店(☎72-8658)
Booksきょうはん宮古南店(☎79-0013)
琉球COLLECTION 叶(かな)(☎75-3818)
楽コレクション(☎73-4360)
宮古島市文化協会事務局(☎76-6708)

■駐車場スペースに限りがございますので、お乗りあわせでご来場ください。
■当日は、公演終了後に伊良部島行きチャーター船をご用意いたします。

主催：鼓童交流公演実行委員会 共催：宮古島市、宮古島市教育委員会

後援：(株)宮古毎日新聞社、宮古新報(株)、宮古テレビ(株)、(一社)宮古島観光協会、日本トランスオーシャン航空(株)

主管：宮古島市文化協会(お問い合わせ：事務局 ☎0980-76-6708)

//// 会員を募集しています ////

宮古島市文化協会では宮古島の文化・芸術の普及振興のために共に活動して下さる個人会員・団体会員を募集しております。

また当協会の趣旨に賛同しご協力いただける賛助会員の募集も随時行っておりますので是非ご連絡ください。お待ちしております。

お問い合わせ先

宮古島市文化協会

事務局：☎0980-76-6708

ホームページ

<http://miyakobunka.com>



編集後記

会報「掌」では、表紙を5つの円で地域を表現している。宮古島市になって、平良・城辺・上野・下地・伊良部が一つになった。この五つの地域文化を網羅するねらいがある。「地域かわら版」もその一つ。今回は特に祭りの話題が多く、書き手も地域の皆さんに協力してもらった。文化は暮らしでもあり、その積み重ねを大事にしていきたい。今回の表紙は「翔」。宮古の馴染み深い野鳥5羽を野鳥の会の砂川栄喜さんに提供してもらい紹介した。ちなみに、宮古野鳥の会は今年、設立40年を迎えた。このたゆみない活動は宮古の環境と文化を大きく変えた。今後のさらなる活動に期待し翔とした。(S)